

インドネシア母子手帳国際研修への参加



研修におけるグループワークの様子

10月27日～11月2日にかけてインドネシアにて行われた母子手帳国際研修に真崎専門家と母子健康教育ブックレット活動に携わるカウンターパート3名が参加しました。

インドネシアでは、約20年間にわたり母子手帳を活用した保健サービスの向上に取り組んでおり、インドネシア政府がどのように母子手帳の全国展開を進めたかを学ぶとともに、地方自治体の取り組み状況を知るためランプン州を視察しました。参加したカウンターパートは、今後カンボジアにて予定されている母子健康教育ブックレットの導入に活かす具体的な運営手法を学ぶことを目標に研修に参加しました。今後カンボジアで取り組む活動として、参加者から下記の意見が挙げられました。

1. カンボジアでは母親手帳（ピンクカード）、子ども手帳（イエローカード）、破傷風ワクチンカード等バラバラに配布されるため、産前健診や産後健診の際に母親が保健センターに必要なカードを持ってこない場合がある。このような状況を防ぐため、ワクチンカードを綴じる等、必要書類を一つにまとめる工夫をしたい。



ランブン州にて母親学級を視察

2. 2019年1月から始まるスバイリエン州での導入事業を成功させるために、活動を牽引する指導者の育成とその後のスーパービジョンによる指導を徹底する必要がある。母親・家族への指導を担当する保健センター助産師と看護師への教育が重要となる。
3. 今回の研修参加国はどの国も多少なりとも自国の予算を使用していた。今後、母子健康教育ブックレット活動を継続、推進するにあたり、予算の確保が重要となる。今後は、政策決定者へのアプローチを積極的に行っていききたい。

研修に参加したスバイリエン州保健局母子保健課長は、帰国後上記に挙げられた目標を達成すべく、州の定例技術作業部会を通じて今回の研修内容や今後の方針を共有するとともに、地域の医療従事者に対して積極的な情報発信を行っています。